座長：岡村　菊夫（東名古屋病院）

5 難治性の頻尿に対して漢方薬が有効であった１例

社会医療法人若弘会　若草第一病院　泌尿器科[1)]
社会医療法人健生会　土庫病院　総合診療科[2)]
林　知行[1)]、吉田　健志[1)2)]

【緒言】

八味丸は腎陽虚の代表的な薬剤であり、前立腺肥大症や排尿困難、頻尿に対して効果を示すとされている。頻尿症は泌尿器科が診察する代表的な症状だが、しばしば難治性で様々な薬を試し骨盤底筋体操や蓄尿訓練を指導するも状況が改善しない場面に遭遇する。今回、我々は難治性の頻尿に対して八味丸が有効であった症例を経験したため報告する。

【症例】

症例は75歳、男性。昼夜問わず頻尿を有することを主訴にX年1月に当院泌尿器科を受診し、腹部超音波検査で前立腺容積:21.05mLのごく軽度の前立腺肥大症を認めた。問診ではIPSS:24、QOLスコア:5、OABSS:7であり、PSA:1.4 ng/mLと前立腺癌は否定的であった。初診時に前立腺肥大症による頻尿症状と考え、タムスロシン塩酸塩錠:0.2 mg/日の処方を開始するも無効のため、タムスロシンから他剤に変更した。以後、様々な薬を処方するも効果が乏しく頻尿症状が改善しなかった。X年11月に八味丸 7.5 g/日の単剤処方を開始したところ、本人より症状改善したとの報告があった。X+1年2月のIPSS:18、QOLスコア:3、OABSS:5であり、問診からも頻尿症状の改善が確認された。現在に至るまで八味丸の処方を継続しているが、頻尿症状の悪化なく経過している。

【考察】

八味丸は乾地黄、茯苓、山茱萸、牡丹皮、山薬、沢瀉、桂枝、附子からなる薬剤で、六味丸で腎陰を補い、桂枝と附子で腎陽を鼓舞し、疲労及び倦怠著しく尿量減少または尿回数増加があり手足に交互的に冷感と熱感のある排尿諸症状の改善に対して有用であるとされている。本症例では、様々な薬剤を試したものの、最終的に八味丸による症状改善を認めており、難治性頻尿症状に対して有効な選択肢になり得ると推測された。